

## 丹陽なすの声価にこたえるもの

## 丹陽なすとCDU化成

一宮農業協同組合丹陽支店を訪ねて

河 見 泰 成

今はむかし一宮の真清田（ますみだ）

変じて毛織物の町となる

なすの作付面積は、35年の27,400ha（100）を基準として、40年30,000ha（109）、41年29,800ha（109）、42年28,900ha（101）、44年26,800（98）と減少している。

ただ、ここで注目したいのは、なす、きゅうり、などを中心とする果菜類の動向で、これらの果菜類は、作付面積こそ減少しているが、施設栽培面積がかなり増えていて、集約的な栽培による単位面積当り収量の増加と、周年的供給体制のひろがり、十分に作付の減少を補っているということである。

なすの場合をみてみよう。すなわち収量は35年の449,400トン（100）を基準として、40年623,300トン（139）、41年666,800トン（148）、42年（714,900トン（159））、43年715,300トン（159）、44年こそ680,400トン（151）と微減したが、作付面積の動向とを対照すると、その間の成り行きがよく判る。

名古屋市の中心部から西方ほぼ20kmの距離に、毛織物の都市として有名な一宮市がある。むかし尾張国の一宮真清田（ますみだ）神社の門前町として発祥したこの市が、どうして毛織物の生産地に変貌したのか知らないが、**「真清田」**の3字が示すように、その頃からこの辺一帯は、平坦な田んぼが展開していたのであろう。

服地の街一宮市の丹陽町の一帯には、この真清田の名残が見られ、ハウス栽培の**「丹陽なす」**の生産地として、蒲鉾形のハウスが幾つもならんでいる。

なすと云っても、この丹陽なすは、関東で見馴れた長サ10cm程度のものではなくて、長サ20cm、長なすというにしては（福岡のなすは30cm

くらいのもがあるそう）肉づきの良いなすである。そして三年前から、このなすの収量を増大し、市価を高めるのに、**「CDU」**と**「硝加安NK化成」**が肩入れしているという訳だ。

生産と販売のかたい紐帯

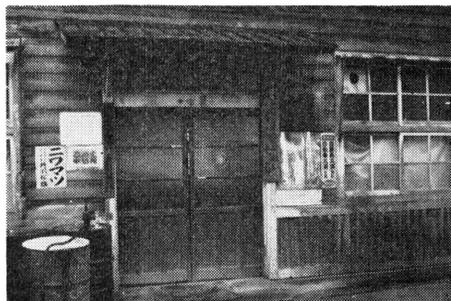
がっちり結んだ研究会と農協

4月17日早朝の東京は雨だったが、着いた名古屋も雨もよい。それに春とは思えぬうそ寒さには閉口した。

久振りの名古屋営業所で、所長の松村さんらと挨拶を交わしたあと、県担当の近本さんの自動車で丹陽町の現地へ向った。

途中、お目当ての一宮農業協同組合丹陽支店にはまだ少々時間があるとのことで、一宮市の新しい街づくりの1部として整備が進められている**「繊維センター」**あたりをグルリと一と巡りして、自動車は丹陽支店へ…。

**「ようこそ…。」**土曜日の午後とあって、職員は大半引揚げた薄暗い事務所で、肥料担当の鎌田さんが待っていた。



一宮農協丹陽支店の入口

**「支店長は間もなく参ります。え？農協のくせに「支店」というてはおかしい？無理ではないけれど、以前このすぐ傍に役場の支所がありましたのでなあ、合併して新発足した当方はなに分あと**

口じゃでのう。同じように支所と名乗ったら、どっちがどうやら判らんようになるで、そこで農協らしからぬ支店と名乗ることになりましたんや、これで一宮農業協同組合丹陽支店の由来がハッキリした。

「そうですね、当丹陽町のなす栽培面積は25～26haです。近本さんからあらましおききになられたと思いますが、ここでハウス栽培をはじめた昭和33年から、なすに関しては生産、技術、出荷などを総合する事務的な仕事は「なす研究会」が当たっております。会長1名、副会長2名、書記1名のほか、出荷と技術関係の仕事を管理する者が各1名ずつおり、その下にまた各3名ずつの人員が配置されております。そう研究会というもなあ、会則というものがある訳でもないで…。」

もとは一と云えば4Hクラブが発展的に解消した研究会であるが、今日まで初代の大島さん、2代目の森(多)さん、3代目の岩田さんを経て、現在森(浩)さんに会長がバトン・タッチされているが、過去13年の実績積上げは、今や愛知のモデル産地として、後進産地からの、視察や研修のための来訪者が絶えないという事実に徴しても、この研究会の重要性が判ろうというものだ。



美事ななす(岩田さんのハウスで)

すなわち共同育苗を手はじめに、常に生産指導に当る一方、出荷、販売を担当する農協との紐帯が、しっかり結ばれていることを見逃す訳に行かないのだ。

雨の中を、なす研究会の初代会長の大島さんと、支店長の伊藤さんが入ってこられた。

「丹陽のなすはその9割が中京市場へ、あとは岐阜に出ています。実は先年、神田市場に出荷してみたんです。ところが、「これはお化とちがうか?」と云われましてのう、そこで、生産と経営がうまく行つとる現在、あまり無理せん方がいい

という訳で、岐阜以外への県外出荷はここ当分見送りというところですよ。」

という話は、充分うなずけるのだが、

「現時点(4月17日)における本年の丹陽なすの出荷ですか?まあおそらく200%から200%の減少ですわ…。」

と、これはまた意外な言葉が飛び出した。

「???…。あまり意外な話にびっくりしている筆者らを、いたずらっぽく眺めながら伊藤さんは

「考えてみれば、それも無理はないのですよ。うちから技術を習得して行った新興産地が増えれば、それにつれて出荷も増えるのでのう。当り前のことでしょう。うちの技術、うちの技術と云うとる、そのうちの技術そのものが、13年前に富田林(とんだばやし=大阪府)で習得させて貰うたもんだでのう一。」

と、自信のほどを物語ったが…

「情報によると、きょう(4月17日)名古屋市場に1,000ケースの高知物が入荷したそうなの。ただ鮮度、出荷経費の点などを考えると、どこまで出荷の持続性があるかは問題じゃろうけんど…、と云うて、われわれもあまり野放図なことばかり云うてはおれんのです…。」

と、自戒も忘れない。

「気象条件も必ずしも良くないし、こんな事情から、ことしのなすの値段はあまりバツとせん。昨年のも、2割安(2kg当り440円)というところでしょうか?それでも有難いことに、昭和33年にハウスを手がけてから15年間、採算割れになったのは、たんだ1年だけ、だそうなの。」

その「1年だけ」というのは、おそらく伊勢湾台風(34年9月26日)に見舞われた年であろう。

常に上を向いて歩いている丹陽なす

CDU化成が肥効で肩入れ

昭和27、28年頃からはじまったビニール・フィルム農業利用と、その後の道路網の開発が、わが国の農業に大きな影響を与えたことは否定できないだろう。

わが丹陽町としてその例外ではない。ビニール・フィルムの利用は、施設費こそかかるが、生産技術の革新と収量増、そして、価格の安定をもたらすとともに、名神高速道路と名岐バイパスの完成は、中京市場の兵たん基地としての距離を一層短

縮せしめたが、一面この2つの道路の完成で、600haに及ぶ丹陽町の農地の1~2割が消えてなくなった。

以来、丹陽なすは常に「上を向いて、歩るいて来た。

とは云うものの、いつも良いことづくめという訳には行かない。ハウスにおけるこれまでの施肥のやり方では、濃度障害や、ガス障害が避け難いし、労力も充分ではない昨今、ハウス内という特殊環境にあっては、これまでのようにたびたび追肥をすることは許されなくなった。

「そこで、こういう点を何とか解消する方法を…と考えていたところ、3年前に、県の園芸研究所の展示圃試験で、CDU化成が非常に理想的な肥効を示していることを確認できましたので、さっそく、CDU化成を施肥設計にとり入れたという訳です。」

と、折柄ようやく雨足が激しくなった中を来られた一宮市稲沢農業改良普及所の奥村さんは、伊藤支店長のあとを受けて、こう語った。

参考のために昭和46年度の施肥設計例を示すと次のとおりである。

肥料名	全量	追 肥				
		元肥	1月後	2月後	3月後	4月後
	kg	袋	袋	袋	袋	袋
CDU園芸化成	200	10				
BMようりん	100	5				
硝加安NK	160~220		2	3	3	3
硫酸加里	20			0.5	0.5	
マグカル	210	7				
水 マグ	40	2				
硫 マグ	40			2		
切 わ ら	1,000~1,000~ 600 600kg					
石灰窒素	20	1				

- ① 硝加安NKの第1回追肥は50日頃からはじめる。
- ② 石灰窒素は切わら施用の場合に限る。
- ③ 有機質肥料としてキノックス300kg、毛ヅ300kg、腐蝕毛ヅ150kg、綿粉500kgのいずれかを施用する。
- ④ クロールピクリンの土壌消毒の場合は、元肥の施肥量を2割程度減らすこと。

なお、このほか施肥上の注意点として、次のような点があげられている。

1. 土壌ピクリン剤で土壌消毒をして、ガス抜きと同

時に石灰分を施用すると、薬剤と結合して有害物質が出る場合があるので、施用しないこと。

2. 鶏糞はガス発生障害の原因となりやすいので、施用はひかえること。

3. 施肥の適正をはかるため土壌検診をし、これによって施肥を加減する。有機質として施用する綿粉、毛ヅは充分に水分を含ませる。

4. 土壌線虫が発生して生育が不安定になりやすいので、土壌調整剤H. S. Cを7~10袋施用することが必要である。

### 生産者が納得できるような

### 経営形態がほしい

森(多)さん、岩田さんらが見えて初代、2代、3代の会長さんが揃ったところで、雨中を(現会長の森浩通さんは所用のため不参加)ほど遠からぬ岩田さんのハウスへと向った。

支店長の伊藤さんは、「選挙のこともあるので、悪いけど…。」ということで残られた。



岩田さんをかこんで (右から鎌田さん、森さん、岩田さん、左端は大島さん)

激しい雨、ぬかるむ農道にはいささか閉口したが、乳白色のビニールを張りつめた骨太の大型ハウスは、いかにもどっしりとしていて、外部と殆んど完全にしゃ断された中っていると、何かホッとするものを感じさせた。

6棟15aあるという岩田さんのハウスの中では、なす紺と白のしぼりに、黄色い瓣もあてやかな花が咲いていて、大きくて色つやの良い葉の影から、大きい、小さい、中くらいのなす紺の果形が、乙(おつ)に済ましている。中には手にとってみると、あにはからんや、人目に見えぬ部分が赤くなっているのがあったりする。

向うの方では岩田さんをはさんで、大島さん、森(多)さん、農協の鎌田さんらが何やらしきりに話込んでいる。その様子は、ちょうど自分の子供の育ち工合いについて、あれこれ話をしてい

ようなポーズである。こうした姿勢も、生産者だけが持っている「情」が自然にそうした構えをとらせるのかも知れない。



ちょっといかれとるかな?  
(岩田さんのハウス中で農協の鎌田さん)

「なすのハウス栽培は、34年の秋に襲った伊勢湾台風以後、すっかりその骨格が変わりました。それまでのハウスはきわめて材質が脆弱なものでした。いまご覧のように(と、奥村さんはパイプを握りながら)このハウスは、風速40mの大型台風でもビクともしませんし、フィルムもそれだけ強度のものを使うてあります。」

と、奥村さん。

なすは加温栽培の場合は年内定植、半促成の場合は3月に定植するが、結局なすの収穫はじめは1月から、収穫終りは6月ないし7月上旬までの長期にわたるので、10a当り少なくとも5トンの収穫は可能であるそう。

という、大変結構なことのようなのだが、ここで「待った。」がかかるのだ。

「なすの場合、何が一番むずかしいかと云いますと「花とり。」と云いましてなあ、ジベ処理したあと、上手に花をとってやらんと、すぐ腐れが出る。というてこの作業は、機械でやるわけに行かんですわ。1つ1つ丁寧に…。それだけ時間がかかる。」



風速40mの台風でも大丈夫  
(岩田さんのハウスで奥村さん)

「このほかハウス内での作業と労力、函詰めその他包装作業や市場への出荷経費など、こうしたも

のを合計しますと、これだけで生産費の4割にもなるのです。一方、栽培適温の上限を27℃として、これ以上になると自然換気ができるよう自動換気扇をつけたり、暖房、集、排水施設など、可能な限り施設は惜しまんつもりですが、これ以上ハウス内の機械化、省力化が可能か一となると、なかなかむずかしい。それに労力が問題、兼業で2.5人、専業で2.7人というところで、これ以上はむづかしいのじゃないでしょうか?あれこれ考えますと、なすのハウス栽培の適正規模は結局10aということになりましょうか。」



むずかしい花どり作業  
岩田さんのハウスで

「消費者の皆さん方のお立場から、野菜の高い安いがよく問題になりますが、一方、生産者の方からすれば、生産者が納得できる一たとえばこの辺の日当を仮に2,500円として、それに合うような値段で売りたいと思うのは、人情ではないでしょうか。単純に値段に収量を掛け合わせれば相当額になりますがさてそれから諸経費

を差引き、更に家族労働を適正に見るとなると、この頃の野菜経営は楽ではないということになりましょう。とに角、私の信条として、「いつも登り坂にさしかかっている。そのつもりで歩く。」ということ指導に当たっております。」

**あとがき** 11日の知事選から、25日の市町村長と市、町、村会議員を選挙する統一地方選挙も終り、あわただしかった4月もようやく過ぎた。

灰色がちだった東京の空も、この頃はだいぶ青ぞらが見えるようになって、さて街のあちこちに緑が萌えてみると、意外外にその緑は華やかで、さすがの東京も見ちがえるように錦躍になりました。いつでもこうなのでしょうが、編集子はどうも例年と感色がちがうように思えてなりません。これで街ながか静かになれば、もっと良いと思えますが。

しだれていた隣家の八重桜も散りそめて、拙宅の庭はスノードロップや山吹、さては芝桜などが咲きほこっている。

本誌が出る頃には本年の生産者米価も決定していることですが、どうもこの頃の農業事情は重苦しいことが多いので困ります。カラリと五月晴れに晴れるのは、いつ頃になるのでしょうか。(K生)